

京都市自転車政策における路面表示のデザイン

Road Marking Design at Kyoto City Cycling Policy

Hideko Fujimoto 藤本 英子

平成 28 年 12 月、国での「自転車活用推進法」の成立を受けて全国的に自転車政策が急速に進められている。それに先立ち京都市では「世界トップレベルの自転車共存都市」を目指して、平成 27 年に「京都新自転車計画」を策定し、平成 28 年 10 月に「京都市自転車走行環境整備ガイドライン」を制定した。このガイドラインに基づき市内道路上への施工が順次進み、市の目指す自転車走行環境の「みえる化」が進められている。

平成 27 年度より、自転車走行環境の調査、分析を、国内外で行ってきた実績を活かし、京都市自転車走行環境整備ガイドライン部会（平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月）に参画するとともに、自転車走行環境におけるシンプルで効果的な路面表示のデザインを下記のように進めた記録である。

- ① 矢羽根型路面表示の間隔についての走行実験を実施。
- ② 道路の整備形態別の自転車ピクトグラムの検討。
- ③ 河原町丸太町交差点付近で実証実験を実施（京都市）。
- ④ 交差点等安全性が求められる位置での注意喚起表示の研究とデザイン。

⑤ バス停注意喚起表示の研究とデザイン。

①、③では、実際に路面での表示を行い、アンケートなどの意見をもとに調整を行った。②では道路の走行速度を考慮したピクトグラムの縦横比を変えるとともに、矢印、矢羽根の使い分けを、国のガイドラインに基づきながらも、シンプルなオリジナルデザインを作成した。④、⑤では国際的にも瞬時に認知されるために、言葉ではなくびっくりマークの活用を行った。

全国各地で自転車走行環境整備が進められる中、その多くの路面表示が青系である。京都市は道路のデザインについて定めた「京（みやこ）のみちデザイン指針」に基づき、自転車関係はベンガラ色の路面表示である。この歴史的景観を重要視する京都市での取り組みは、他自治体からの注目を受けている。全国各地で、景観を重視した路面表示が進むことを望んでいる。

科学研究費補助金基盤研究（C）研究テーマ「景観における自転車通行環境のデザインに関する研究」課題番号：15K00694 によった



幹線道路路面表示



細街路路面表示



細街路交差点路面表示